KOUHOU よびかけ

令和５年４月発行
編集・発行
南相馬市少年指導員連絡協議会

【発行 第２４号】

令和４年度　表彰
長年の功績が認められ、１０名の方々が表彰されました。

福島県青少年育成推進大会で、後藤英之さん、梶田千賀子さんがそれぞれ表彰されました。

また、令和４年度　南相馬市表彰にて、田中一正さん、船橋まつ子さん、渋佐道子さん、白川秀子さん、林登美子さん、後藤英之さん、梶田千賀子さん、西道典さんの計８名が表彰されました。

表彰された皆さまおめでとうございます。

今後益々のご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。

「子どもたちに思いをよせて」

南相馬市少年指導員連絡協議会
会長　後藤　英之

会員の皆様には、毎月の街頭指導に多大なるご協力をいただきまして、心より感謝申し上げます。また、令和４年度の総会におきましては、３年ぶりに会員の方々のお顔を拝見し対面式で開催出来ましたことは喜びにたえませんでした。

昨今の南相馬市は、宝島社が発行する「田舎暮らしの本」で発表されました「２０２３年版 第１１回 住みたい田舎ベストランキング」において、東北エリアランキングで「子育て世代が住みたいまち」の両部門において第２位（福島県内第１位）に選ばれました。

この理由の一つには、南相馬市が若手起業家に向けた支援や子育て環境等の整備など、切れ目ない支援を実施しているからだと考えられます。その中の一つとして子育て支援では、男性の育休取得や在宅保育、多子世帯子育て、学校給食、子ども医療費等の支援や保育料等の支援が充実していると考えられます。

全国的には去年の出生数が、速報値で統計以来初めて８０万人を割り、過去最少となりました。国は「「危機的状況」であると認識している。子ども・子育て政策は未来に向けてもっとも大切で重要である。少子化のトレンドを反転させるために、今の時代・社会において求められる子ども・子育て政策を具体化し進めていくことが重要である」と強く感じていると報道しています。その減少要因の一つには、晩婚化や一生独身、結婚していても経済的な理由などで２人目以降の出産を諦める、いわゆる「２人目の壁」があるようです。子どもが欲しい家庭ではもともと、沢山の子どもに囲まれる生活を夢見ていましたが、今は２人目以降の出産に対し費用負担の面で“ためらい”があるといいます。

国の調査では、希望する人数の子どもがいない夫婦に理由を聞くと、「子育て費用や高等教育費用にお金がかかりすぎるから」が最も多く、全体の５２．６％になるようです。

いろいろな形で行政がお金の面で支援しているが、昔から子育ては「家庭教育」「学校教育」「地域社会教育」による心の教育が大切であると言われています。近年の家庭環境や社会環境はとても激変し、親自身も困惑するほどで、子どもの鏡となり人生のお手本となる親の成長が低下していると言われています。子育てに１００％はありません。子どもが学んで成長するように、親も子供の親となるよう毎日が勉強だと思います。また地域が人を育み、人が地域を作る社会環境を実現させることが大切であると思われます。

最後に、少子高齢化時代において私たちも地域全体で子どもたちを育て、「自ら考え判断するすこやかな心、自立したやさしい心を持つ子どもたち」を育成することが極めて重要だと考え、今後も少年指導員としての活動を務めてまいります。

令和４年度　南相馬市少年指導員連絡協議会　総会開催
（令和４年５月１７日　南相馬市生涯学習センター）

「安心・安全で希望のある町へ」

原町区　梶田　千賀子

この度、県青少年健全育成推進大会の席上において、「県民会議会長賞」の表彰を受賞致しました。市少年センター、一緒に活動してきた少年指導員の皆様方々に御礼申し上げます。

指導員の班ごとの街頭巡回活動で子どもたちの元気で笑顔あふれるあいさつ、地域の方々からのねぎらいの言葉を励みにしています。今後も微力ながら、自分のできることを続けていきたいと思います。

「南相馬市表彰を受賞して」

原町区　田中　一正

南相馬市少年指導員としては今回が、初めての南相馬市表彰受賞になると思います。市民として、受賞することができ、たいへん光栄に感じております。更に私たち少年指導員の中から、合計８名のメンバーが一緒に受賞することが出来たことは、私たちの日頃の活動が認められた成果でもあり、改めて喜びに耐えない次第でございます。

少年指導員には一般の方をはじめ、様々な団体から推薦で入会した方々が活動しています。私はＰＴＡから少年指導員になりましたが、民生児童委員や教師、保護司、更生保護女性会の皆さんがおります。子ども達への対応についてはそれぞれの立場から、指導をして貰っておりますが、私は子ども達を他人の子どもと思わずに自分の子どもや孫と思い指導をしてきました。今後も多くの子ども達と接していきたいと思っています。

指導員を長く続けてきて各表彰を受賞することがゴールではなく、あくまでも出発点と捉え、今後も後輩の指導に頑張っていきたいと感じております。

「活動を引き継いでゆくこと」

鹿島区　百田　尊道

少年指導員として街頭活動をしていると、地域社会の中で子ども達の生活する環境に対して新しい気づきを得ることが出来ます。

町中の公園を巡回してみると遊ぶ子ども達を目にする機会がほとんど無く、周辺にも見守る

大人の目が見当たらないことです。指導員となる前の自分であれば誰もいない場所とは問題の起きないところと考えましたが、先輩指導員からの話を伺ううちに人の気配の無い場所こそ特に注意して巡回していくことが大切なのだと気づかされました。

「地域と連携した活動の大切さ」

原町第二中学校教諭　**北原　直人**

南相馬市内の中学校に転勤し、今年で４年目の少年指導員の活動となりました。

地域の指導員が街頭指導を通じて、地域の子どもや若者達の健全育成に貢献することはとても大切であると常々感じています。自分の小さい頃を思い出してみても、地域の大人に見守られながらよく声をかけられたものです。年代を問わず地域の青少年の成長を願うのはいつの時代も同じです。子どもの成長は、南相馬市更には福島県の発展のためにも欠かせないことです。地域の宝である子どもの安全を守るためにも、市少年センターや少年指導員の皆様の活動に今後も加わり尽力したいと考えております。

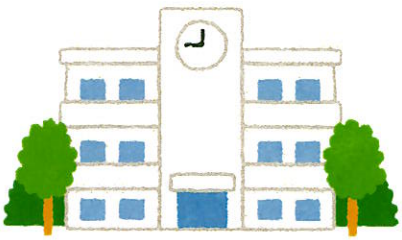
「少年指導員活動に参加して」

小高区　**門馬　孝子**

大震災と原発事故から１２年、小高区内の町並みは大部変わり空地が目立ち復興は未だ道半ばです。コロナ禍で活動も制限されましたがそんな中、認定こども園からの元気な声や校庭を走り回る小学生の姿に気持ちがほっとしています。

小高区の活動は、毎月第２水曜日下校の時間に合わせ、教師、ＰＴＡ、保護司、民生委員、更生保護女性で２班に分かれて小高区内を街頭巡回しています。

小高産業技術高校の生徒達の下校時小高駅に向かう挨拶は元気よく気持ちの良いものです。私たちは一人ひとりが人として尊重され、次代を担う青少年の健全育成に努めてまいりたいと思います。



少年指導員活動の様子

午後の街頭指導

原町区

鹿島区

小高区

早朝街頭指導（原ノ町駅）

こども未来フェスティバル（ゆめはっと）

「県少年センター連絡協議会補導員研修会」

鹿島区　小屋　進

新型コロナ感染症対策のため開催が中止されていた県補導員研修会が、３年ぶりに開催されました。前回は、いわき市で行われ、今年度は、歴史ある「小峰城」の白河市で開催され、南相馬市からは、後藤会長をはじめ７名と事務局２名の計１１名で参加しました。

県内１０市の補導関係者が一堂に会し、青少年を取り巻く諸問題について知識を深め、少年補導員の資質の向上を図るとともに、各少年センターの連携を図る目的のため、「青少年の理解と大人の関わり方」の演題で基本的な考え方や見通しを説明された講演会でした。講演で心に残った言葉は「会話の基本はあいさつ」これからも街頭指導において、挨拶（愛の一声）を継続していきたいと改めて思わされる講演でした。

（令和４年１０月３日　会場：白河市立図書館「りぶらん」）

「3地区合同街頭指導活動」

本年度も鹿島区・原町区・小高区の三区合同での街頭指導活動を各地区にて実施しました。活動に参加された各地区の指導員の皆さまからいただいた感想の一部をご紹介します。

鹿島区の方から

今回、3区合同での街頭指導に参加させていただき、小高区での多くの中高生に声をかける機会が多く、声をかけるたびに指導している自分たちが子どもたちから元気をもらっているような気がしました。小高区、原町区の指導員の方とのコミュニケーションも良い刺激となり、私のこれからの指導員活動にも様々な面で活かしていこうと思います。

原町区の方から

駅にて子どもたちが元気に下校する姿に思ったより生徒の数が多い事にホッといたしました。学校での指導が徹底されているのか、自転車での通学ヘルメットをかぶり、左側をしっかりと走っている姿を見て安心しました。

小高区の方から

鹿島区の活動が月に5回あると聞きすごいと思いました。巡回コースも考えられたものとなっていると思います。活動の時間帯について午後6時からというのがあるようですが、11月になると暗くなるため指導員の皆さんも大変ではないかと思いました。いつも細やかな指導活動をされいるように感じました。